

芦屋市水道ビジョン・経営戦略概要版(原案)

～蛇口の先にある「当たり前」を確かな経営で守り抜く～

【経営上の課題】

水を作るコストが売る価格を越える異常事態



人件費・資材費の高騰により水道工事費は
5年前と比較して約1.5倍に上昇
減価償却費・金利上昇も経営を圧迫



年1.2億円の「特別利益」が終了

県公社からの水利負担金収入が令和7年度で終了
財政的打撃



水需要の低下と料金体系の乖離

人口減少・節水機器の普及に加え、4割の世帯が
基本水量（20m³）未満の使用



老朽管更新と耐震化の財源不足

昭和30～40年代に整備されたインフラの更新と
耐震化が急務

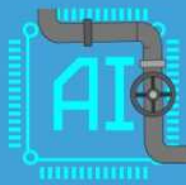


【今後の取り組み】

健全な経営維持のための料金改定の検討



受益と負担のバランスを考慮し、施設更新
や耐震化のための安定した財源を確保



AIを活用したアセットマネジメント

AIで管路の劣化を予測し、更新の優先順位を最適化
することでコスト抑制と安全確保を両立



耐震化と施設のダウンサイジング

ダクタイル鋳鉄管の採用で耐震性を高めつつ、将来
の需要に合わせて施設を最適な規模に縮小



民間活用と広域連携の推進

民間事業者へ委託の検討や近隣自治体との連携
により経営の効率化を図る

